

自分をとりまく環境

真庭市立北房中学校

三年生 大西天我

今朝、ぼくはいつもより少し早起きをした。今日は、コスモスの種蒔きがあるからだ。

ぼくの住む地域では、花文字というものをしていて、毎年九月頃に、きれいなコスモスが、地域の名称を表して華やかに咲く。今日も、そんな町のシンボルを守るために、大勢の地域の方が集まり、草取りと種蒔きを行うことになっていた。ぼくも朝早くから母に起こされ、

「天我もコスモス行こう。」

と誘われた。ぼくは体こそ起き上がっていたものの、まだ気持ちには布団の中にあるような状態だったので、

「ええっ、ぼくも行くん？」

と泣いていた。そのうち、母と小学生の弟二人は、軍手と手鍬を片手に草取りへと繰り出していった。のそのそと着替えをすませ、顔を洗い、少しシャキッとしたぼくは、

「行くかあ。」

と大きな声で独りごとを言い、母たちのあとを追った。

ぼくが着くと、もうたくさんの方が集まって作業に取り掛かっていた。小学校の保護者の方が、ぼくに近づいてきて、

「おっ、天我。よう来たなあ。」

と片手を挙げたので、ぼくはハイタッチをした。そして、みんなの中に入り草取りを始めた。前日に雨が降っていたため、草は思ったよりも簡単に抜けた。しかし、ぼくは寝起きのせいかやる気が起きず、手にも力が入らない。周りの小学生や保護者が黙々と草を取り、自分の横に積み上げていくのを、人より遅いペースで作業しながら横目で見ていた。

ぼくは、もともとボランティアやイベントに参加することが好きなほうで、これまでも、弟の小学校の行事などで、他の保護者の方と一緒に手伝いをしたり、地域のお祭りで踊ったりしてきた。だから地域の方も、ぼくのことをよく覚えてくださった。現在の小学校の校長先生は、ぼくが在学中にお世話に

なった先生ではないのだが、弟の行事に参加しているうちに、顔を覚えてくださった。今では登校中にすれ違ふときには、必ず手を挙げてくださるほどの仲だ。この日の作業にも、校長先生が来られていて、ぼくのことを見つけると、

「いつもありがとうございます。」

と声を掛けてくださった。その言葉にぼくは嬉しくなり、自然と草を抜く手に力が入るのを感じた。さっきまでのダルさとか、暑さなんかはどこかへ飛んでいった。我ながらなんとも調子がいいとは思うが、軍手をギュツと上げ、「さあやるぞー」と、そう思うことができたのだ。

気合いの入ったぼくは、目の前の草を黙々と抜いていく。色々な音を聞きながら。川の音に、車の走る音、虫の鳴く声、カエルを追いかける小学生の声。かん高い小学生の声を聞きながら、つい三年前まではぼくも同じ小学生だったのに、母の背を追い越した今、大人たちと並んで作業をしていると、なんだかすごく大人になったような気分になった。でも、顔見知りの保護者の方が、

「テストはどうだった？」

「高校はどこ行きたいか決まってるん？」

「もう部活は引退したんじゃないあ。」

と話しかけてくれれば、やっぱり中学生の自分を感じざるを得ない。だけど、そんな風に、「こども」である自分を包む空気、何だか安心もした。あるときは大人と同等にハイタッチで迎えてもらい、あるときは子どものように包むように接してくれる。その空気がとても心地よくて、ぼくは今日ここに来てよかったと思った。ときどき顔を上げてみると、しゃがんで懸命に作業している色とりどりのTシャツの山が、そこそこに見える。一人でやると面倒くさい作業も、大勢でやると不思議と気持ちよく作業できるはなぜだろう。例えるなら、大きな船を動かす歯車の一つになったような感覚だろうか。ここにいるみんな、大きなものを動かしているという連帯感。自分も大事な歯車の一つであるという責任感。そしてみんなの手を差し伸べ、支え合えるという安心感が混じり合って、最後には大きな達成感を味わせてくれる。そうしてみんなで力を合わせた結果、草はきれいに抜き取られ、そのあとコスモスの種をびっしり蒔いた。きつと九月にはきれいなコスモスが咲きそろうだろう。

約二時間の作業は終わり、その後みんなに配られたジュースを飲みながら、きれいになった土手を眺めた。対照的に参加者

は、みな汗まみれの顔に泥だらけの手をしていた。みんな笑顔で「おつかれさま。」といたわりあった。ぼくは今朝、母に、

「天我が来たら、みんな喜んでくれるよ。」

と言われたことを思い出していた。朝早くて渋っていたけれど、ここに来て、自分を知る人と会話をし、一緒に作業ができてよかったと思った。誰かが、

「ご苦労さん。ありがとうな。」

と言ってくれたけれど、ぼくは、自分を取りまくこの環境に感謝しようと思った。いつもより数倍も美味しく感じるジュースを飲み干して、ぼくは家まで走って帰った。

帰ったらお風呂に入ろう。

いつもよりも心地よい涼しい風がぼくを包んだ。